



## 御館館



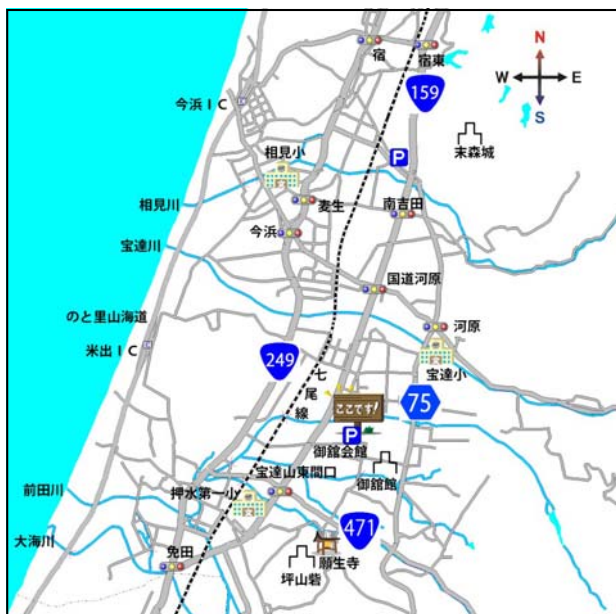
副郭の土塁・櫓台と空堀



畑地となっている東郭  
東側を街道が通っていた



主郭土塁や副郭の一部は  
畑地や果樹園として利用



所在地：石川県羽咋郡宝達志水町御館

別 称：館内堡

立 地：丘陵先端、標高36m

城 主：不明

時 期：南北朝、室町、戦国

見学時間（参考）：20分～40分

宝達山の麓、杓田川と大坪川に挟まれた舌状台地に占地する。主郭の南側は杓田川に面する台地の縁辺部で12mの崖になっているため、防御施設は存在しない。現在は主郭、副郭、東郭が確認できるが、発掘調査や地籍図調査の結果、主郭の北側にも郭があること

がわかった。明確な遺構が残っているにもかかわらず、城主に関する事跡ははっきりしない。江戸期の地歴書では、岡部六弥太忠澄（江戸期の十村役岡部家の祖）の居館であるとか、承久の乱に敗れて流刑地の佐渡に向かう順徳天皇が一時滞在した館跡という伝承を伝えている。

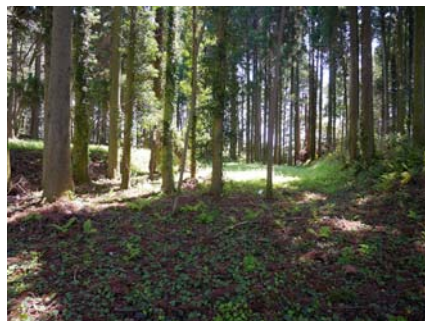
建武3年（1336）、御館は能登守護となった吉見氏の支配下に入るが、永徳2年（1382）に本庄氏に守護を奪われるまで一度も籠城戦には使用されていない。軍事施設というよりは荘園年貢の集積地としての経済的拠点だったと想定される。慶長3年（1597）、能登領主の前田利政が家臣の不破丹波長三郎に館村を与えた後、不破氏が軍事施設として堀の拡張など大規模な改修を行なったと考えられている。

主郭は80m四方の方形で、三方を空堀で囲まれており、堀幅を入ると方一町（約10

0m四方）になり、中世の公家や武士の基本的な居館に相当する規模を持っている。東郭や北郭は居館に隣接して町屋や武家屋敷が並んでいたと想定されている。



主郭は杉の植林地となっている



主郭と副郭の間の空堀

いしかわ城郭カードに関する最新情報・お問い合わせ

北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）

〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9

TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943

E-MAIL. [contact@j-sampo.com](mailto:contact@j-sampo.com)

ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>